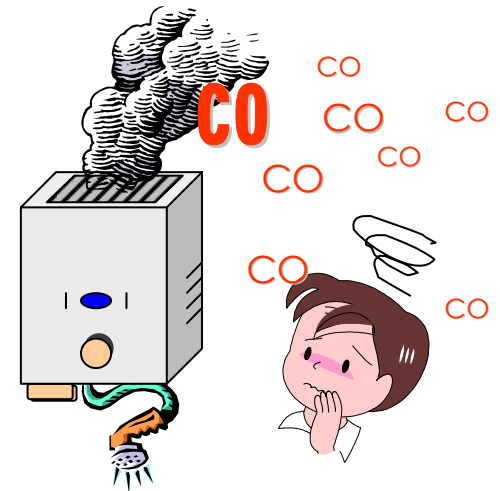


『ガス瞬間湯沸器』の不完全燃焼にご注意ください！

こんな事故が起こっています

開放式小型ガス瞬間湯沸器から黒煙が出ているのを以前から知りつつも点検・修理をせずに使用を続けていたところ、目眩がして気分が悪くなり、病院に運ばれCO中毒と診断された。



これが原因

長年にわたる使用で熱交換器が汚損して目詰まりを生じていたことから、不完全燃焼となり黒煙が上がると共に一酸化炭素が発生していた。

ここに注意

- ・ 黒煙やススが発生しているときや、湯沸器上部周囲がススで黒く汚れているときは、不完全燃焼となっている状態のため高濃度の一酸化炭素が発生し危険ですから、直ちに使用を中止し、業者に点検を依頼しましょう。

『屋外設置型給湯器』周囲の可燃物にご注意ください！

こんな事故が起こっています

- ・ベランダに設置した屋外設置型ガス給湯器付近から発火し、ベランダの一部を焼損した。



これが原因

- ・排気口から可燃物までの距離が近いと、可燃物の発火に至ることがあります。

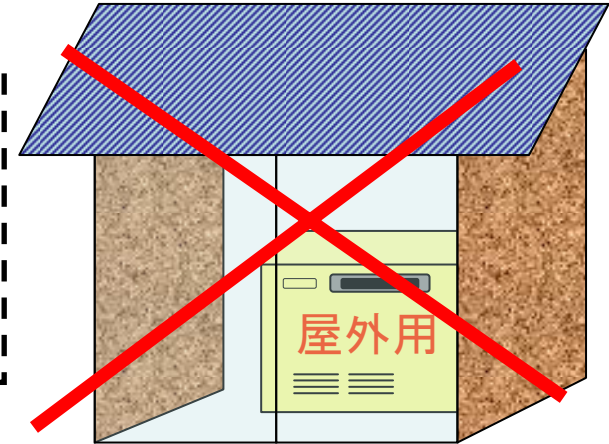
ここに注意

- ・排気口近くに洗濯物を干したり、可燃物を置いてはいけません。
- ・給湯器の周りを段ボール箱や板などで囲ってしまうと給気不足となり異常燃焼を起こし高温ガスが排気口から溢れ出す危険性があります。

『屋外設置型給湯機』の設置場所にご注意ください！

こんな事故が起こっています

浴室で家人がCO中毒により死亡した。本来屋内で使用すべきではない屋外設置型のガス給湯器を増設された脱衣所とユニットバスを波板で囲った中に設置していた。



これが原因

屋外設置型のガス給湯器を屋内で使用したことにより排気ガスに含まれる一酸化炭素が拡散されずに危険な濃度にまで高まって建家内に流入した。

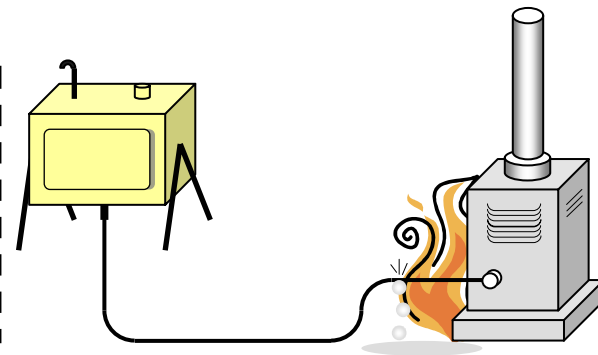
ここに注意

- ・ 燃焼のための吸排気が正常にできず不完全燃焼から一酸化炭素中毒を発生するおそれがありますから、屋外設置型のガス給湯機の周囲を波板やビニールシート等で囲ってはいけません。

『石油ふろがま』のゴム製送油管の 損傷にご注意ください！

こんな事故が起こっています

石油ふろがまのバーナーに点火してしばらくしたら、バーナー全体から火が出たので消火器で消火した。このところ油の臭いが気になっていた。



これが原因

灯油タンクとバーナーとの間をつなぐゴム製送油管に亀裂が生じたため、送油管から灯油が漏れ、何らかの火が引火した。ゴム製送油管は、経年劣化や無理な折り曲げなどにより亀裂が生じることがあります。

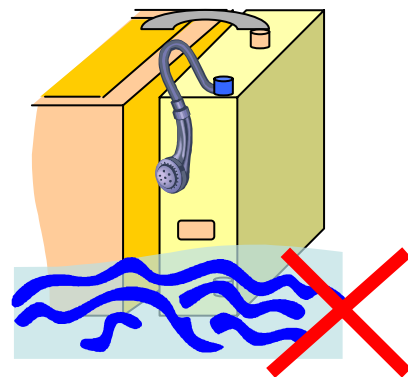
ここに注意

- ・ 送油管に亀裂が入っていないかどうか、日頃より目視点検し、もし亀裂が見つかった場合には、速やかに販売店など専門家に修理を依頼しましょう。
- ・ 送油管を無理に折り曲げて配管したり、踏みつけたりしてはいけません。設置状態に注意しましょう。

浴室内設置型ガスふろがまの冠水ご注意ください！

こんな事故が起こっています

浴室内に設置されたガスふろがまを追い炊きしているときに、洗濯機の排水を浴室に流していたら、ふろがまの前面等が焼損した。



これが原因

浴室床面に流れ込んだ水で、ガスバーナーのノズル部が冠水してしまったことにより、ガスがバーナーの外で燃焼し機器の焼損に至った。

ここに注意

- ・風呂がまが冠水すると火災・故障の原因になります。
- ・浴室の排水口は、こまめに掃除をして水はけをよくしておきましょう。

「ガスゴム管の接続」にご注意ください！

こんな事故が起っています

ガスストーブとゴム管の接続部付近からガスが漏洩し、ガスストーブの火に引火して火災になった。当該ガスストーブ本体とゴム管との接続にはソケットを用いることが指定されていたところ、ソケットが無いゴム管を用いて接続していた。

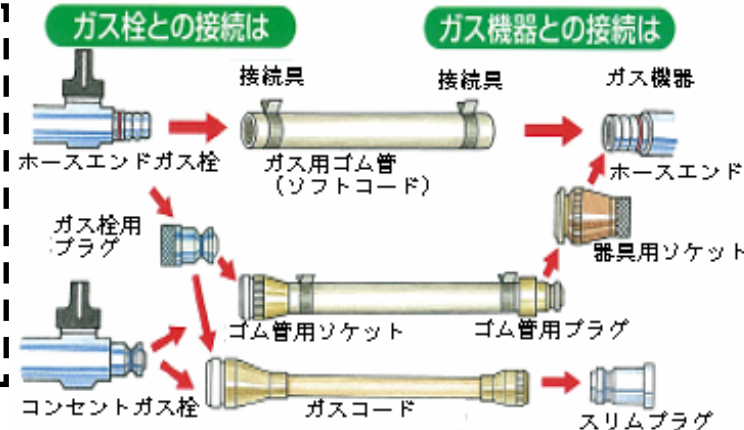
これが原因

当該製品の場合、ソケットを用いた接続とすることが指定されていたところに誤ってソケットが無いホースを接続したため接合部からガスが漏洩した。

ここに注意

ガス栓、ゴム管、ガス機器の間の接続は、接続形状、サイズが適合する接続具が付いたゴム管やガスコードを使用してください。

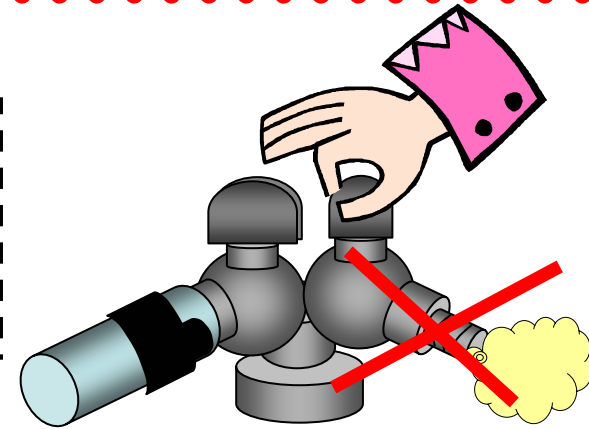
《ガス栓との接続・ガス機器との接続》



「ガス栓の誤開放」にご注意ください！

こんな事故が起っています

コンロ使用中に、コンロ裏側のガス栓に何も接続されていないことに気づかずにガス栓を開放したところ火災が発生した。



これが原因

ガス器具が接続されていないのに誤ってガス栓を開放してしまったため、流出したガスにコンロの火が引火し火災に至った。

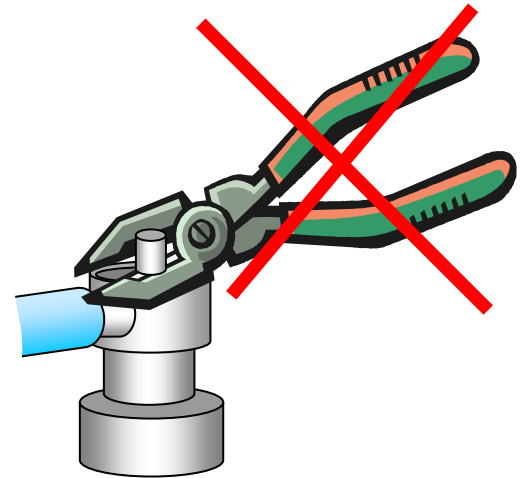
ここに注意

- ・ガス栓を開ける際は、ガス栓にゴム管が取り付けられていること及びゴム管の先がガス機器に接続されていることを確かめましょう。
- ・使用していないガス栓の接続口には、ゴムキャップを付けましょう。また、使用していないガス栓のツマミは、閉栓カバーで覆いましょう。

『ガス栓』の破損にご注意ください！

こんな事故が起っています

ガス栓を開く際、暗かったため、ライターの火を照明替わりにして、さらにガス栓のツマミが破損していたことから、ペンチで開閉を行っていた。ガス栓を開いた際、漏れたガスにライターの火が引火し、火災が発生した。



これが原因

ガス栓をガス栓ツマミがない状態で使用し、ペンチで無理に開けようとしたこと、照明の代わりにライターを用いたため漏れたガスに着火した。

ここに注意

- ・ガス栓のツマミ等が破損、紛失していた状態で使用を続けてはいけません。業者に修理を依頼しましょう。
- ・ペンチ等の工具を使ってガス栓を無理に開けてはいけません。